

<報道発表資料>

E-mail: a2830-04@pref.saitama.lg.jp

.....
カテゴリー:お知らせ

令和7年6月11日

**全国広報コンクールで内閣総理大臣賞・総務大臣賞を受賞した
本庄市が知事を表敬訪問します**

本庄市が、「令和7年全国広報コンクール（公益社団法人 日本広報協会主催）」で内閣総理大臣賞と総務大臣賞を受賞しました。本庄市長が知事を訪問し、受賞を報告します。

1 日時

令和7年6月13日（金）15時30分～15時40分

2 場所

知事室

3 内容

全国広報コンクール内閣総理大臣賞・総務大臣賞の受賞報告及び写真撮影

4 訪問者

よしだ	しんげ	本庄市長
吉田	信解	
はしもと	ひでき	本庄市 企画財政部長
橋本	英樹	
たかなぎ	かずみ	本庄市 広報課 課長
高柳	一美	
ふくしま	かずたか	本庄市 広報課 課長補佐
福島	和孝	
やたべ	すぐる	本庄市 広報課 広報係長
谷田部	優	

5 受賞作品について**内閣総理大臣賞（広報企画 特選）**

本庄市 『～まちの「ファン」である関係人口をまちの「推し」へ～
まちの当事者を増やして、持続的な発展を目指す
本庄市シティプロモーション事業』

人口減少下において、単に外からの移住者を増やすだけではなく、市民の皆さんをはじめ、本市に関わる皆さんがまちの魅力を再発見することでまちへの愛着を高め、「住みたい、住み続けたい、関わりたい」本市のファンとなり、さらには、まちを自らが楽しむ「推し」となることを目的とする。

シティプロモーションの一環として取り組む様々な事業が、関わる皆さんの思い思いの「推し」を生み、市全体の「推し」であるブランドメッセージ「どこにでも行けるけど、ここにいたい。本庄」の誕生につながった。本企画ではここに至るまでの事業の軌跡とこれからの可能性を発表した。



選定理由（日本広報協会より）

昨年、特選となった取り組みをさらに進化・発展させた。論理と実践の積み重ねから「まちの当事者を増やす」という目標を見出し、総合的な展開につながっていることが素晴らしい。課題のとらえ方、分析から導かれた目標設定の説得力、継続的な「七高祭」（6校になっても名前を踏襲する点も含め）の取り組みの質を上げ企画としてさらにパワーアップしている点を高く評価する。特に市内全体で当事者性を持ってもらうため、総合計画に位置付けたうえ、シティプロモーション計画を策定し、若手職員によるプロジェクトチームや地域連携などを実現

できたことは特筆できる。高校卒業生の参加で、まちの当事者増加という目標を着実にクリアした点や新たに作成したブランドメッセージ、ロゴのクオリティも素晴らしい。

シティプロモーションを市外からの認知獲得として捉えるにとどめず、地域の力、関与意欲を高める取り組みとして位置づけていることは重要であり、そうした成果を十分に定量化して提示した上での取り組みは、多くの自治体にとって参考となるだろう。

総務大臣賞（広報写真 組み写真部 特選）

本庄市 『広報ほんじょう』（2024年8月1日号 12～13ページ）



【降りしきる雨を吹き飛ばすほどの躍動
本庄祇園まつり こだま夏まつり】

意識したのは、タイトル通り祭りを目に
した殆どの方が感じたであろう参加者の
「降りしきる雨を吹き飛ばすほどの躍動」
を読者に余すことを伝えること。この躍動
は、まちへの愛着と祭りを心の底から楽し

む「人の思い」の積み重ねが生んでいると考え、レイアウトは「人」をメインに
据え、祭りを全力で楽しむ参加者の写真を実際に紙面上で積み重ねることでその
「躍動感」が読者に届くように表現。

また、両祭りを左右ページで対比させたのは、それぞれの地域の一体感と、競
うように祭りを盛り上げている様子を表現し、このまちの持つ異なる魅力と、参
加者の持つまちへの愛着・誇りを読者に伝えることを意図した。

選定理由（日本広報協会より）

見開き紙面いっぱい現場の熱量が伝わってくるダイナミックな作品。エネルギー溢れる人々の歓声や熱量が誌面から押し寄せ、一目見て魅了されてしまった。躍動感あふれる写真を全面に敷き詰め、劇画調の加工とデザインを施すことで、印象

的なページに仕上がっている。当日はあいにくの雨天だったというが、難しい雨天時の撮影でも、バリエーション豊かにシャッターチャンスをしっかりつかみ、街の人々を主人公にしたストーリーを見事に作り上げている。大胆なレイアウトにより、まるで祭りの中に放り込まれたような臨場感が生まれている。雨にも負けずに躍動する祭りの参加者の姿が、熱気と活力を力強く伝えている。二つの祭りを対比させた写真選定も、躍動感の演出に一役買っている。左右ページで異なる地域にも関わらず、多くの情報量を感じさせない構成力と、一つにまとめ上げる優れたデザイン性と配色のセレクトや、バランス感覚も素晴らしい。コラージュのメリハリや構図、バランスもよく、トーンの統一感もあり、映画ポスターのような完成度の高さがある。夏祭りの組写真というと、参加者の表情や、催し物、出店など様々な風景を混在させる構成が多い中で、コラージュされた写真は一貫して「神輿×人」にフォーカスされている。最もボルテージの高い瞬間を集めたことで、よりメッセージが強まっていた。

<参考>全国広報コンクールの概要

地方自治体等の広報活動の向上を目的に昭和 39 年から公益社団法人 日本広報協会が主催。広報紙・ウェブサイト・広報写真（一枚写真・組み写真）・映像・広報企画の 5 媒体 10 部門がある。各部門から特選、入選が決められ、特選となった団体には総務大臣賞が贈られる。また、最も優秀な団体には内閣総理大臣賞が贈られる。

今回のコンクールでは、令和 6 年 1～12 月までに発行、発表、公開、実施されたものが対象。本県からは、有識者による審査等を経て 18 作品を推薦。

全国からの応募総数 448 点のうち、本庄市が内閣総理大臣賞と総務大臣賞を受賞。また、草加市、三芳町、狭山市、久喜市も入選。